

(4)
(5)
下士官
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)
(11)
(12)
(13)
(14)
(15)
(16)
(17)
(18)
(19)
(20)

(21)	(22)
(23)	(24)
(25)	(26)
(27)	(28)

同部一言葉、使用

對其休戰關スル教訓並ニ意見

参考

軍事秘録

昭和十八年六月二十五日  
 第三十六師團司令部

昭和十八年八月十五日  
(29)

目次

第一 要旨

第二 集團戦力、撃滅手段

第三 最近ニ於ル共產軍ノ戦法

第四 包圍圈ノ構成及壓縮

第五 對共戦闘法

第六 剔抉要領

以上

對英作戰ニ関スル教訓並ニ意見

第一 要旨

對英戦闘及剔抉ニ於テ戰果ヲ收メテノ要ヲ訣ハ部署ヲ適切  
巧妙ナラシメ実行ヲシテ奇襲且執拗的ナラシメ在リ平時  
并部以下ニ對シテ對英認識及戰鬥法等ヲ教育シ置キ自信ヲ  
以テ戰場ニ臨ミ得レ知クヒサレハ戰果ヲ收メ得サレハ勿論好テ  
敵ニ致サレヨト無シトセス  
而シテ對英戦闘及剔抉ニ於テ捕虜及住民ヲ利用セシメテ  
ス特ニ剔抉ニ於テ支那側保安隊或ハ工隊等ヲ活用セシメ  
善意ヲ以テ要トス

第二 集團戦力ヲ擊滅手段ニ就テ

一 大兵ヲ以テ包圍團壓縮ニ依リテ

昭和十七年一軍計畫ニ號作戦ノ知シ敵ニ全圖ヲ欺騙セリ

果効果大ナリ

二敵ノ警戒舉下ノ一舉手英破レ敵根據地孫名敵主カラ急襲  
スレテ

昭和七年二月冬季山西肅正作戰第三天師団ノ桐峪鎮急襲  
本方ヲハ効果大ナリ

三局部的殲滅方ヲ

各部隊毎ニ実施ス

本方ヲハ効果大ナリイモ確實ナリ

對共戰方ハ敵情地形ト使用レ得レ兵力トハ較量レ撃テ

滅手段ヲ確定スレテ實施ス

ヨ號作戰ノ如ク敵ニ全四ノ察知セラレニ拘ラズ包圍圈ヲ壓  
縮スレモ効果ナシ

第三最近ニ於ケル共產軍ノ戰方

一 敵主戦力ハ我進攻ヲ察知スルヤ治安地區内ニ分散逃避シ  
我銳鋒ヲ避ケル傾向アリ  
故ニ進攻ト同時ニ治安地區掃蕩ノ要アリ  
狀況ニ依リテハ進攻ヲ欺騙シ直ニ治安地區内ヲ掃蕩スル  
モ一案トス  
二 敵ハ分散シ我攻撃ヲ避ケルヲ以テ最初ヨリ物資獲得ニ  
専念スルヲ可トス

#### 第四 包圍圈ノ構成及壓縮

包圍ニ用フル兵力カハ切メテ之ヲ大ナラシメ面的包圍圈ヲ構成  
シ之カ壓縮ニカキテハ其實行ヲ急クコトナク特ニ左右連  
絡協同ヲ強調シ包圍圈外ニ敵ヲ逸セサルヲ要ス  
此際狀況ニ依リ一部ヲ要點ニ設置シ包圍圈外ニ逸出スル敵  
ニ備ワルコトアリ 然ルトキハ此設置部隊ハ一地ニ長ク在

留テ敵ニ擊セシメサルヲ要ス  
包圍圈ニ壓縮時ニ於テハ特ニ強カナル空軍ヲ活用シテ  
其逸走方向ヲ迅速ニ確マルト共ニ四散ニ先テ隨所ニ之  
ヲ爆碎スルコト緊要ナリ  
又數個ノ切込部隊（一中隊程度ヲ可トセン）ヲ編成シ包圍  
圈内ノ敵中樞部ヲ索メテ攻撃セシムル時ハ効果大ナルコト  
アリ

## 第五 對共戰闘法

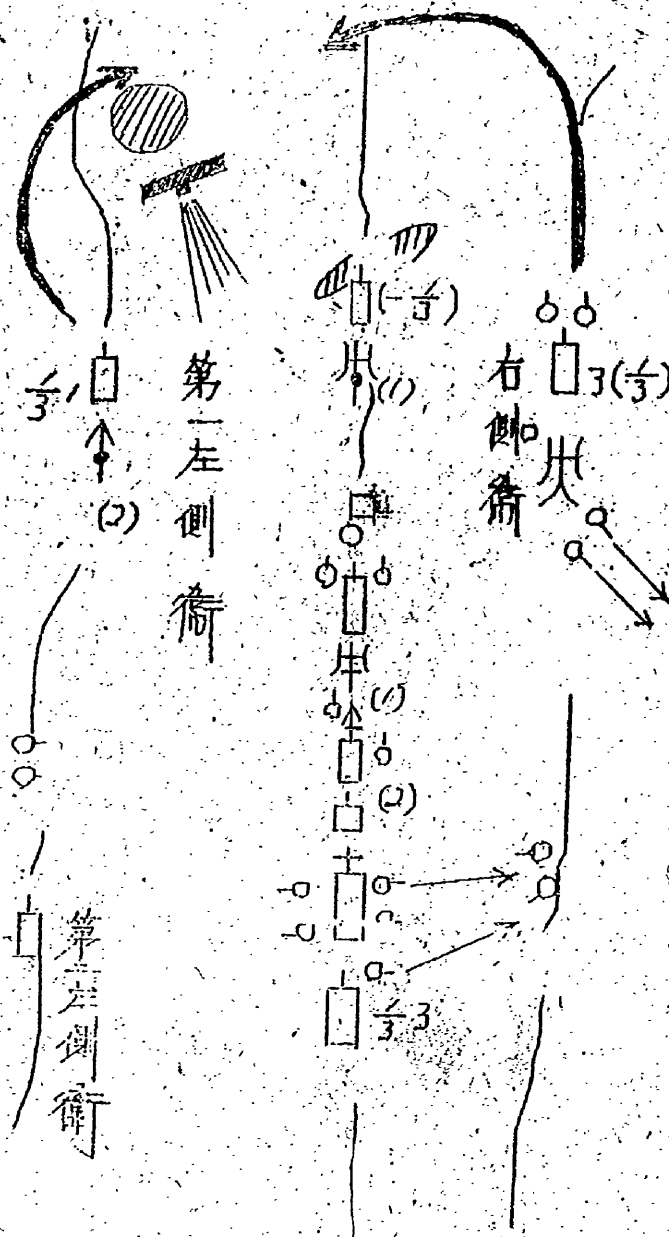
一 隣接部隊（縱隊）相互ノ協同  
單一縱隊力敵ヲ發見スルモ之ヲ捕捉シ得ル困難性對  
共戰闘ニ於テ益大ナリ故ニ此種戰闘ニ於テハ隣接部  
隊相互ノ協同ヲ徹底的ニ強調セザルヘカラス之ガ爲第一線  
部隊相互ノ無線通信ニ関シ特別ノ研究ヲ要スルノ他簡單  
ナル視聽通信ヲ定メ置クヲ有利トス

二 對敵常夜戰法（遊撃手退避）ノ對策

ノ狙撃ヲ兵及側衛ヲ活用シ敵ノ遊撃ヲ戰法ヲ封殺ス  
ルト共ニ迅速ニ包圍シテ之ヲ捕埃スルニ努ムルヲ要ス  
一例ヲ圖示セハ要圖ノ如シ

對共側衛狙擊兵活用一例

要旨  
指揮官、側衛に對し迅速に命令し得ル如く事前準備を置ク之西  
ス之が爲メ又視察通信ヲ活用ス



前方側衛ヲ通過セシメ其全テリト誤  
認セラズ現出セル敵ノ奇襲ス



火砲ハ努メテ前方ニ行進セシメ敵ヲ捕捉シ得サル場合ニ於テモ  
迅速ニ敵ニ砲撃ヲ加ヘ打撃ヲ與フル者意ヲ要ス

3. 地雷ノ發見處置

地雷ノ發見處置 (探知器其他資材携行)ヲ前進セシメ發  
見及之カ處置式ハ位置標示ニ任セシムルコト必要ナリ此際  
保安隊ヲ隊、捕虜、住民等ヲ同行シハ有利ナル事多シ

地雷ニ對シテ  
發見シテ  
速ニ報知ス

三. 空地移同ニヨル敵ノ捕捉法

飛行機敵ヲ發見セバ之ヲ爆撃機ニ附近ノ地上部隊爆撃地点  
ニ向ヒ突進敵ヲ包圍捕捉スル等空地協同動作ハ採用スル  
キ有クナル手段ナリト信スルモ地上部隊過度ニ発煙筒ヲ收キ  
為ニ敵ニ企圖ヲ判断セラル之ヲ逸セル例アリ注意ヲ要ス

四. 攻撃部隊ノ特徴

對共攻撃部隊ハ追撃部隊ニ準スルヲ有利トス

是敵ハ抵抗スル場合ニ於テハ多クハ後方ニ主力ヲ退却シ準

備中ナルガ又ハ退却中ナルコトヲ以テナリ

五. 其他

初期作戦ニ於テ  
三人組ヲ編成ス

歩兵ノ突撃前ニ敵ハ退避スルノ例トセルヲ以テ豫メ迂回ニ  
ヨリ退路ヲ遮断シテ處置シ講スルヲ要ス  
狀況急ニシテ退路遮断レ得サル場合砲兵ヲシテ射程ヲ延  
伸セシメ敵後方ニ著弾セシメ敵ヲ抑留レツ、白兵ヲ以  
テ突入成果ヲ與フケレ例アリ  
又支那軍殊ニ八路軍ハ兵銃劍ヲ有セサル者多キヲ以テ白兵  
戦闘ニ資シテスルハ有利ナルモ手榴彈戰ニハ相等ノ經  
験ヲ有シアルヲ以テ侮ルヘカラサルモノアリ  
又敵ノ軍犬一飼ヒ馴ラシタル野犬ニテモ可一ニ對スル恐  
怖ハ想像外ニシテ極言備又作戰計伐時除行方面ニ  
使用スル時ハ効果大ナリ

4. 情報審査ノ爲長時間ヲ費シ爲ニ良好な情報ヲ入手セル  
ニモ不拘遂ニ敵ヲ捕捉シ得ザリシ例尠カラス

工作隊ヲ使用スルカ或ハ中隊内ニ下士官ヲ長トスル捕虜取調  
機関ヲ設ケルヲ可トセン

5. 掃蕩剔抉ニ當リテハ敵ノ謀略殊ニ水及食物ニ對シテハ留意  
スルヲ要ス。又仕掛地雷及手榴彈等ニ依ル死傷尠カラス之  
カ豫防ニハ常に捕虜及住民等ヲ利用スルヲ可トス

又共產地區ニ派遣セル密偵ハ逆用セラルハ懼大ナルモノアルヲ  
以テ留意スルヲ要ス

6. 靖土空野ノ訓練ハ徹底シタルヲ以テ糧秣等ノ追送ヲ顧

慮スルヲ要ス。又井戸並ニ水源地ハ隱匿又ハ破壊セラレアルヲ

例トスルヲ以テ相當ノ準備ヲ必要トス

久戦ニ併行シテ宣傳ヲ實施スルハ大ナル効果アルモ誌

大ニ注意サル様注意スルヲ要ス

外ニ自軍駐留スルト佈告シ民衆ヲ歸來セシメ宣傳セル後

撤退は爲し歸來民ハ入路軍ヲ爲し慘殺セラル後ハ宣  
揚ニ支障ヲ來セル例尠ニシテセス  
ハ家屋山奥等ニ潜伏セル敵ニ對シテ瓦斯ノ使用ハ効果  
大ナリ

## 第六剔抉要領

一 要旨  
平時ノ敬言備態勢ニ於ケル敵性分子ノ剔抉ハ困難ナル間  
題ナルモ作戰間ニ於ケル剔抉ハ比較的容易ナリ  
而シテ作戰間ニ於ケル剔抉ハ要セハ捕虜及住民ヲ獲得  
シ之ヲ調査シテ敵情並敵施設等ヲ知ルニ在リ  
二 剔抉ノ成果ヲ收メタル爲著意スヘキ事項

1676

精神教育

剔抉ハ對共作戰行動ノ重要ナル一部ナルコトヲ將校以下ニ徹底セシメ苟クモ骨惜ミ等ノ爲不徹底ニ終ラシメザルコト堅ク要ナリ

二 幹部特ニ情報主任以下ニ對スル事前教育ノ必要

情報主任以下ノ適任者撰抜及之ニ對スル調査訊問  
誘ノ教育

三 調査ニ當リ對共特殊感情ニ支配セラレ暴力ニ訴ヘサルコト

ハ被訊問者ニ生命ノ安全ヲ自覺セシメルコト

ニ訊問時通譯ニ勝手ナルコトヲ忌ムハシメザルコト

三 敵性分子及住民ノ獲得法

行軍宿營時ノ如何ヲ問ハス附近綫上又ハ部落

ニアリテ我ヲ監視シタル支那人ヲ發見シ得ルコト屢々ナリ

而シテ該支那人ハタテハ敵性分子(敵兵)ニシテ其附

近ニハ敵部隊ノ施設等アルコト珍シカラス故ニ之ヲ看過ス  
ルコトナク捕獲スルヲ要ス

捕獲法ノ一例ヲ述ブレハ左ノ如シ

1. 晝間豫メ監視者ノ位置ヲ見届ケ置キ薄暮秘令明ニ  
乗シ小部隊ヲ以テ奇襲ス

2. 晝間部落ノ剔抉法

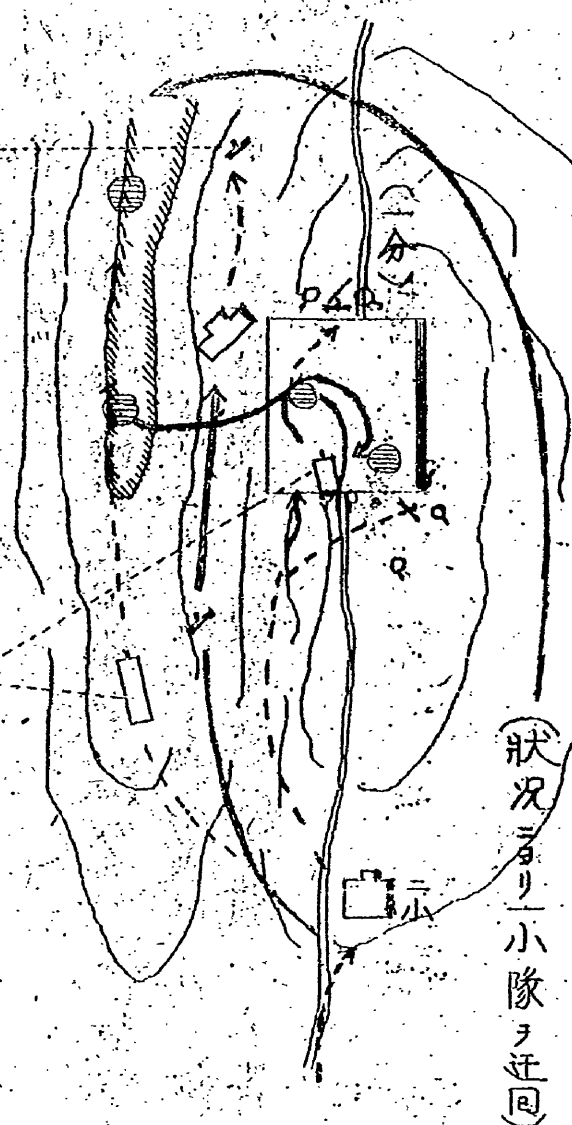
剔抉部隊ハ部落ニ進入前若干距離ニ遮敵停止シ  
剔抉方策ヲ立案シ要スル迂回シ急襲的ニ行フ此際  
一部ヲ以テ部落前端ヲ占領シ逃避ニ備フルノ著意  
ヲ必西要トス

圖示スル左ノ如シ

例一、領要挾別落部

説明

本要圖ハ步兵ニ小隊（却支那側機関ヲ屬ス）ヲ以テスル掃蕩別挾ノ一例ヲ示ス



小隊ノ主力ハ逐次援護シツツ移動

別挾部隊  
保安隊工作隊（却日本軍）ヲ充當スルヲ有利トス

（狀況ヨリ一小隊ヲ迂回）

3 前日掃湯ノシテ部ヲ落ラ翌日黎明ニ乘リ再ヒ急襲ス  
 此方志ニ依ルトキ能ク住民ヲ得イコトアリ

4 一旦支那人ヲ發見セハ執拗ニ追跡ス

5 宿營地近接部ヲ落ニ一部ヲ潜伏セシメ置キ夜間糧秣水  
 等ヲ得イコト歸還スレ部ヲ落民ヲ逮捕セシク

四 最近ニ於テ物資掩匿ノ傾向  
 特種ノ傾向ヲ認メサレモ例ヲ與テスルハ左ノ如シ  
 一 糧秣集積所ニ峪地ノ人口ニ住民之ヲ禁止メ標札ヲ掲グ  
 二 所アリ  
 該地ニ於テ糧秣庫ハケラ發見セリ  
 三 耕セシ畑地ニ山砲陣地進入ノ際架木尾駐杭打ノ時駐杭金  
 屬性ノ底杭ヲ感シ是ヨリ銅屑(駄馬百五十頭分)ヲ發見セリ  
 四 兵器工場附近ノ部落ヲ奇襲シ職工一名ヲ逮捕シ是  
 ニヨリ兵器工場一及多數ノ手榴彈及迫撃砲彈体ヲ發  
 見セシク右彈体多量集積表石炭下ノ坑内ニ掩匿セラレタリ



レ  
ア  
リ

1681